

第6回 CIEC サタデーカフェ

開催概要

開催日:2021年10月16日(土)20:00~21:00

会場:Zoomによるオンライン開催

プログラム

20:00~20:15 【話題提供】

スピーカー:河口紅(NPO法人さんぴいす理事長、
兵庫県立大学非常勤講師)

大脇巧己(NPO法人さんぴいす事務局長)

テーマ:「主婦と変人が創り出す新たな学びとは」

20:15~21:00 【フロアとのフリーディスカッション】



第5回 CIEC サタデーカフェは「主婦と変人が創り出す新たな学びとは」をテーマに NPO 法人さんぴいすの河口氏と大脇氏のお二人による話題提供で開始しました。お話は河口氏の性差によるモヤモヤ体験からスタートしましたが、そういう女性的な視点よりも、生活者の視点をいつも大切にされています。ひき肉の冷凍保存法や蒸気レス炊飯器の開発、また市内のおさんぽマップの作成などの経験を踏まえて制作者の視点だけではなく、利用者の視点を盛り込むことの大切さを実感されたそうです。そこで紹介されたのが、「勝者の代償」(ロバート・ライシュ)という書籍にある、アーティスト、発明家、研究者に代表される「変人」と、営業担当者、プロデューサー、コンサルタントに代表される「精神分析家」が互いに学び合えばあうほど、より多くの技術革新が起こるという理論です。これを河口氏は「変人」を「教師」に、「精神分析家」を「生活分析家(主婦)」と読み替えることで、これらが互いに学び合うことは大切ではないかという提起をされ、話題提供は終了しました。

その後、フロアを交えてのディスカッションに移りましたが、どのようなことでも、いろいろな視点に立って考えることが大切であるということに終始しました。例えば、教師は子ども達がどのように社会で生きていくのかを教えることが重要である反面、現場では教科のスキルを教えることに注力しがちであることや、ICT が進化し、学習自体も考える力の育成へシフトしているからこそ、教科内容の本質を正しく教えることが大切なのではないかということが話されました。また、生活者の視点というのは、デジタルシチズンシップの考え方方が大切なのではないかという話もされました。これらの話から、つまりは専門家がすべてを決定することが正しいわけではないということが顕在化する時代が来たように感じました。河口氏のお話の通り、バブル時代は男女差別も当然のように存在し、それが女性の視点を大切にしていくきっかけになりましたが、次は性別に関係なく、すべての人においてさまざまな視点を持って考えることが重要になってきたと感じます。これを教育に置き換えると、先生と生徒、生徒同士の対話の中でこそ机上の知識にとどまらない真の生きる力となる学びが成立し、互いに学び合うことがより大切で、またその先生役は学校の先生に限らず、保護者や地域の大人であってもよいということだと感じました。最後には、これからのお子さん達にこのような生活者の視点を持てるように育っていくことが大切であり、そのためにも、大人も同じ視点を持つように意識することが大切ではないかとまとめられました。

今回は14名ほどの参加でしたが、教員以外の話題提供者による初のサタデーカフェとなり、とても有意義な時間でした。この会も 6 回を数え、さまざまな分野でご活躍の方に参加いただき、回を重ねるごとに CIEC らしい取り組みだと感じています。今回も時間を延長してディスカッションを楽しみ、盛況のうちに終了しました。今回の話題提供者である河口氏、大脇氏、またご参加頂いた方々にこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。(文責:平田義隆)

